

## 第2章 研究ノート・提言

## 教師を目指す学生に伝えたい実践力⑤ ～職員会議・校長資料「指導・支援のコツ①」より！～

辻 誠 一<sup>1), 2)</sup>

著者は校長として、宮城県内の特別支援学校（角田養護学校3年・光明支援学校2年）に5年間勤務した。その間、職員会議で教職員に発信してきた校長資料「校長室のつぶやき」を基に、教師を目指す学生に伝えたい実践力⑤として、特に4～5月の時期に大切にしてほしい「指導・支援のコツ」を3つの視点から整理し、本学の教師を目指す学生に役立つ内容の一部を「研究ノート」としてまとめ紹介した。

キーワード：実践力、教師力、職員会議、指導・支援、コツと技

### 1. はじめに

昨年度の東北福祉大学教育・教職センター特別支援教育教育年報では、教師を目指す学生に伝えたい実践力④として、宮城県特別支援教育センターの広報誌「燦々」(2011.4)の巻頭言に著者が寄稿した「教師力向上のための4つの視点！」の原稿を基に、4月から教壇に立つ学生のために、現在の教育現場の現状を踏まえ、教師力向上のための大切な視点をまとめ紹介した。

今回は、教師を目指す学生に伝えたい実践力⑤として、著者が校長として勤務した5年間（宮城県立角田養護学校3年・宮城県立光明支援学校2年）での職員会議資料「校長のつぶやき」を基に、年度初めの4～5月の時期に、教職員へ再確認してもらいたいこととして発信してきた「指導・支援のコツ」の一部を3つのカテゴリー毎に整理し「研究ノート」としてまとめ提言する。

### 2. 職員会議における校長資料について

学校現場における職員会議とは、学校運営の円滑化を図るためのものであり、チーム学校として、校長が所属職員との共通理解を図り、協力し合い学校教育目標を達成するための大

---

1) 東北福祉大学教育学部教育学科

2) 東北福祉大学教育・教職センター特別支援教育研究室

切な場である。

所属長である校長にとっては、職員会議は、校長としての考えや学校運営の方針を伝える重要な場であり、いわば「校長の授業」の一つである。また、その会議で提示する資料は、開催時期に応じタイムリーで適切な内容であるべきであり、所属職員が校長の経営方針をイメージし易くシンプルに整理されているものであることが求められている。

そこで、著者は職員会議の資料作成の際には、常に図1のようにA4判一枚を基本に整理し、所属職員が理解を深めやすいように工夫し、その時期毎の重要事項や教師としての「指導・支援のコツ」を発信してきた。

平成25年4月5日 図

平成25年度 宮崎県立光明支援学校・第1回 職員会議 図

<感じていること> 図

☆☆☆ 新たな光明・平成25年度スタート ☆☆☆

○新しい職員の皆さん、光明へようこそ！  
 ※今年度は、(児童生徒数：355名、教職員数：207名)。  
 ※長命ヶ丘分校が、いよいよスタートです。  
 ※「新しい環境(希望と不安) 誰もが不安です！」  
 ※学校、学級、通学、家庭生活に早く慣れ、生活リズムを整えましょう。  
 ※深呼吸して、たんぽぽの花のようにしっかりと根を張りましょう。

○出会いを大切に！  
 ※子ども・保護者・同僚・地域との新たな出会いを大切にしてください。  
 ※特別支援教育との出会いを大切に。一どの教育も同じです。

○私の大切にしている「3つの視点」です。今年度も3つの視点！を自覚してください。

①3つの自覚	②3つの笑顔	③3つのビジョン
・社会人としての自覚 ・教員としての自覚 ・組織の一員としての自覚	・子どもの笑顔 ・保護者の笑顔 ・教職員の笑顔	・毎日の指導へのビジョン ・学級、学級運営のビジョン ・組織の一員としてのビジョン

**教育はシンプルに！教師こそ「明るく・元気」に！**  
 ☆子ども・保護者・同僚・光明に必要とされる教師になってください☆

○益々、大規模校となり、先生方にはご苦労をおかけします。  
 ※H25年度の長命ヶ丘分校及びH26年度の特せへの小学部移転を視野に入れて！

<連絡等> 図

1 平成25年度を迎えて 図

- ・始業式、入学式、長命ヶ丘分校開校式を大切に！ 図
- ・校長参観及びPTA参観を大切に！ 図
- ※親の目の厳しさ(教師の笑顔や話し方、子どもへの言葉かけや様子・服装 等) 図

2 「ほろ(報告)れん(連絡)そう(相談)」の徹底を！ 図

- ・学級主事、主幹、教頭等への連絡を密にしてください。 図

3 その他 図

- ・心も体も緊張しています。慣れない道、慣れた道にも十分注意し、今年度も無事故で！ 図
- ・児童生徒の健康管理、安全管理について(交通安全、給食指導、管理下内での事故 等) 図
- ※昨年度のような給食中の重大事故が解いよう、安心安全な学校を目指しましょう。 図
- ・信用失墜行為の撲滅(飲酒運転・個人情報管理 等に十分注意してください。) 図
- ・教職員の健康管理及び安全管理について(事故防止、交通安全等) 図
- ※自己の健康管理のためにも、今後も適正な在校時間へのご協力をお願いします。 図

一何かの段等に！ー

○指導・支援のコツ①

- ・校種が違っても「教育の基本は同じ」です。
- ※まずは、僅かな目と心で子どもたちと接してください。
- ※一単年の指導の成否は、4月の卒業づくりに決まります。(子どもとの秋頃比べです)
- ※IT(イ・ティ・エ)は、「目配り・声配り・心配り」です。

○信頼される学校②

- ・日頃の挨拶や電話応対をしっかりと！(保護者・来校者・地域の方々に笑顔で)
- ※特に長命ヶ丘分校の先生方は、長命ヶ丘小学校の職員にも配慮願います。
- ・特別支援学校は、すっかりしたスボーツウェアと運動靴が必需品です。

図1 「4月職員会議(光明)校長資料」2013.4より

＜参考＞ 6)

法的根拠としては、学校教育法施行規則48条（職員会議）（中学校、高校に準用する）で下記のように規定されている。

- 1 小学校には、設置者の定めるところにより、校長の職務の円滑な執行に資するため、職員会議を置くことができる。
- 2 職員会議は、校長が主宰する。

### 3. 「指導・支援のコツ①」（校長室の「つぶやき」）について

著者が校長として勤務した5年間、毎月の職員会議で校長資料に書き留め発信してきた「校長のつぶやき」を整理し、4～5月の時期に、ぜひ教職員に意識し大切にしてほしい教師力の向上に役立つ内容を「指導・支援のコツ①」として、下記の3つのカテゴリーに分類し紹介する。

＜分類＞

- ①【4月スタート時期の心の準備】
- ②【特別支援学校の教師として、日頃からの心構え・あれこれ】
- ③【日々の授業・指導のコツ】

#### 1) 4月スタート時期の心の準備

どの教育も、4月の新学期スタート時期が肝心で、子供たちも保護者も、そして教師にとっても不安な時期となり、この時期こそ、心の準備をしっかりと行い教師としての自覚を高め乗り切ることが大切である。

今回は、この4・5月の職員会議で、特に教職員に発信してきた内容を紹介する。

##### ①4月は、子供たちとの我慢比べの時期である。

この時期は、教師以上に子供たちは、環境の変化に敏感である。そして、新しい環境に不適応を示し、問題行動を起こしてしまう子供たちも多く見受けられ、教師にとっては、子供たちとの我慢比べの時期である。教師は、問題行動にばかり目を奪われることなく、この時期こそ子供たちと一緒に遊び、そのかわりの中から実態をしっかりと把握することが重要である。「根気・呑気・元気」の心を忘れずにである。

##### ②一年間の指導の成否は、4月の学級づくりで決まる。

学級・学部での約束をしっかりと決め、教師間でのかわり方や支援法の共通理解が大切である。小・中、高等学校・特別支援学校と校種が違っても「教育の基本は同じ」である。

我が子を育てるように「優しく・厳しく・温かく」、そして「温かな目と手と心」を忘れずに子供たちと接することが重要である。

**③T・T（チーム・ティーチング）は、「目配り・気配り・心配り」である。**

特別支援学校の指導の特徴であるT・Tの在り方を再確認することが大切である。

効果的なT・Tの在り方は、昔からの永遠の課題であるが、教師間の共通理解とお互いの「目配り・気配り・心配り」が基本であり「阿吽の呼吸」で実施されることが必要である。教師の個性や専門性を最大限に活かし、 $1+1=2$ 以上の結果（成果）になるようチームワークを高めることが大切である。

**④教師の仕事の基本は、子供たちとしっかりかわり、毎日の授業を大切にすること。**

特に特別支援学校では、腕組みして、座ったままで指示だけする教師は必要ない。さらに、できないのは、障害が重いからと責任転嫁する教師では務まらない。何の準備もせず単に子供を見ているだけの手抜き教育にならないよう、日々の授業を大切にすることが大切である。

**⑤特別支援学校の教育こそ、事前の教材研究や諸準備が大切である。**

初めて特別支援学校に勤務する教師にとって、不安だらけの日々が続くかもしれないが、心配はいらない。最初は誰でもが初心者である。考えるよりも慣れるであり、指導・支援の第一歩は、先輩教師の仕事ぶりや保護者から学ぶ（真似る）ことである。

教材研究に役立つ特別支援教育関係の月刊誌の活用を薦める。

**⑥教育をシンプルに（意味付けと意義付け）！**

教育の基本は、「当たり前前」のことが「当たり前」に実施・整備されている学級や学校である。

日頃から各種行事や毎日の指導に意味付けと意義付けする習慣を身に付けることが大切である。（ビジョンと説明責任）

「教育をシンプルに」とは、何でも単純化し手を抜くことではない。誰にも分かりやすく、教育効果が高まるよう教育全体を整えることである。それが結果的に保護者や同僚の信頼獲得につながる。

特別支援学校（知的障害）での教育課程も同様であり、系統的・連続的に指導できる教科をしっかりと位置付け、場合に応じて「各教科等を合わせた指導」を教科等の関連から意味付け・意義付けし、言葉遊びにならないようシンプルに構造化することが大切である。

**2) 特別支援学校の教師として、日頃からの心構え・あれこれ**

若かりし頃の著者が、先輩教師に指導され、今でも大切にしている視点や項目を整理し

職員会議の校長資料で発信してきた。

特に現在の学校現場でも役立つ教師力アップのための大切な「日頃からの心構え・あれこれ」について紹介する。

### ①教師は、何でも屋である。

教師の仕事は、他の多くの仕事とは違い、時として学習発表会や運動会等を企画運営する演出家であり芸術家である。各種授業の中では演技者ともなり「何でも屋」なのである。

そのためには、教師一人一人が自分の個性（良さ）を磨き、「得意技」を持って自己アピールできることが大切である。

### ②特別支援学校の教師として「子守り教育」では失格である。

特別支援学校の教師は、子供たちの実態をしっかりと見抜き毎日の授業が（普通以上）できて、当たり前である。

特別支援学校に初めて赴任し、一年が過ぎも「何も分からなかった！、周囲は何も教えてくれなかった！」は言い訳である。自ら子供たちのために特別支援教育に関する基礎・基本を学び「教師力」を高める努力が大切である。

ぜひ、プロの教師として自覚を高め、実態把握や指導の方法、記録の付け方や事例研究の方法、教育課程の理解等を学んでほしい。

### ③子供たち以上に「教師こそ宿題をしっかりと！」

教師にとっては多くの事務処理が待ち構え、提出期日が決められた提出物（個別の各種計画・通信票・PTA原稿・学習指導案・共同個人研究等）が多く存在している。子供たち以上に「教師こそ宿題をしっかりと」との意識を忘れず、事務処理は適切迅速に余裕を持って取り組むことが大切である。

### ④子供の指導の前に「保護者・同僚との信頼関係」ありき！

子供たちに安心を与える教師は、保護者からも同僚からも信頼される。学校組織の中では、同僚から信頼され、仲間と協力し合い共同・協働作業ができる教師であってほしい。

互いに気配りのできる教職員組織は、子供たちの教育を中心に考え仕事のしやすい職場である。教師の自覚と責任感が、教師力を高め保護者や同僚から信頼される第一歩である。

### ⑤教師こそ「明るく・元気に・頑張る」を目標に！

学級目標の「明るく・元気に・頑張る子供」は、実は教師にこそ求められている一番の資質である。教師にはバランス力が不可欠であり、教師こそ「明るく・元気に・頑張る」

る」を目標にすべきである。

**⑥誰もが、学部主事・学年主任・各部署のチーフを担当するという意識を持って！**

長い教師人生の中で、現在の自分の仕事に自覚と責任を持ち、将来の立場へのビジョンを持つことが大切である。

当然、ベテラン教師は、意欲と情熱ある講師の若さに負けないようなプロ意識と専門性の高い指導・支援技術の習得が大切である。

全職員が勤務校の組織の一員として、力量を高め自覚と責任を持って協力願いたい。

**⑦「われただたるをしる吾唯足知」の意識を持って、全てから学ぶ。**

「吾唯足知」とは、今に感謝し不平不満を言わず、より前進を誓うという意味である。

●勤務校との出会いを大切に。

●子供・保護者・同僚・地域との新たな出会いを大切に。

全てから学ぶ姿勢を忘れず、子供や保護者、同僚、職場に必要とされる教師を目指すことが大切である。

**⑧教師である前に一般人としての常識を！**

子供たちを指導・支援する教師こそ、社会の一般常識をわきまえ、教師の仕事に自覚と責任を持つことが重要である。教師は、子供たちの目標や模範となれるように行動できるかが大切である。

**⑨「勤務校に必要な教師」とは自分の立場を考え、仲間と一緒に行動できる職員である。**

「人に厳しく・自分に甘く」の教師では、誰からも信頼を獲得することはできない。「人に優しく・自分に厳しい」教師こそが、子供たちや保護者、同僚に安心を与え、信頼を獲得することができる。

光明のような大規模校では、一人一人の教師が傍観者でなく、各自の仕事や立場を自覚し、リーダーシップとフォロアーシップの発揮が重要である。

ぜひ「勤務校に必要とされる教師」「勤務校になくてはならない教師」を目指してほしい。

### **3) 日々の授業・指導のコツ**

特別支援学校の教師の第一の仕事は、子供たちの実態を奥深く見つめ、指導・支援の方法を工夫し、毎日の授業を大切にすることである。

そのために、ぜひ日頃から心がけてほしい「日々の授業・指導のコツ」を紹介する。

**①自分の専門や得意技を生かし、教師自身が毎日の授業を楽しむことが大切である。**

我が子を育てるように、愛情を持って子供たちと接し、温かな指導・支援を工夫し実

践することが大切である。そのためには、まず自分の専門や得意技を再確認し、それを日々の授業に生かしていくことが重要である。

日々の授業準備だけに追われることなく、せひ教師自身が毎日の授業を楽しむ心の余裕を持つことを期待する。

## ②障害のまえに個性ありきである。

障害についての基本理解は大切であるが、子供たちには、障害のまえに一人一人輝く個性がある。子供たちの実態を見つめ、日頃から子供たちの心の声にしっかり耳を傾け寄り添うことが大切である。日々の授業においては、その個性を大切に一人一人の教育的ニーズを明確にし、将来の自立と社会参加に繋げることが重要である。

## ③子供たちの実態をミクロ的・マクロ的に探ることが大切である。

実態把握とは、子供たちの表面的な行動だけに惑わされず、子供たちの行動の様子や原因をミクロ的・マクロ的に観察し、その実態を関連づけながら繋げて見ることである。

各学校で実施されている宿泊学習等の学習活動は、子供たちの一日の生活を通した実態を奥深くチェックし把握するための絶好の機会である。

## ④指導・支援の第一歩は、真似から始まる。

特別支援学校での勤務が初めてでも心配はいらない。

特別支援学校での指導・支援のコツは、ベテラン教師の良い実践や参考となる指導方法を大いに真似をし自分のものとするところから始めることが大切である。はじめは誰もが初心者であり、指導・支援の第一歩は真似から始まる。

次に特別支援教育関係の月刊誌等から情報収集することや校内で行われる授業研究会に積極的に参加し自ら学ぶことが、教師力アップに繋がる。

## ⑤「教材・教具」の工夫は、特別支援教育の原点である。

特別支援学校における授業づくりに欠かせないのが、「教材・教具」の作成であり、それらの工夫は、特別支援教育の原点である。

毎年、一つでも多く「教材・教具」を工夫し、障害のある子供たちの授業づくりに生かしてほしい。「教材・教具」の工夫へのチャレンジは、教師の発想力やアイデア力を高め、「教師力」を高めることに繋がる。

## ⑥きめ細かな日々の指導記録の累積が、指導・支援の改善に役立つ。

「実践家（プロの教師）は記録で勝負する。」の言葉がある。

子供たちの行動を漫然と記録し満足することなく、その記録をきめ細かく分析・整理し考察を加えて初めて記録となる。

特に特別支援学校や特別支援学級では、子供たちの日々の様子や変容をしっかりと記録し、その指導記録を整理し、日々の指導・支援の改善に活かすことが大切である。

日々の指導記録を書きっぱなしにせず、月毎や学期毎に記録を整理し、考察を加え指導に役立てることが重要である。この整理しまとめる習慣が指導力アップに繋がる。

#### ⑦指導記録を整理し、実践としてまとめることが教師力を高める。

各授業毎に指導の記録を整理し反省を加えることが大切である。その指導の記録を整理し反省を加えるプロセスが、必ず次の授業改善に繋がる。

次にその指導記録を基に実践一つ一つをまとめ上げる取り組みこそが、教師力をさらに高める一歩となる。ぜひ年度末には、今年度の自分の指導や実践を振り返り反省を加え、実践研究としてのまとめ上げることが重要である。

この長年に渡る日々の指導記録の整理と実践のまとめの繰り返し、教師力の大きな差に繋がる。

## 4. まとめ

著者が校長として、毎月の職員会議で校長資料に書き留め発信してきた「校長のつぶやき」を整理し、教師力の向上に役立つ内容を3つのカテゴリーに分類し紹介してきた。

厳選したつもりではあったが、項目数としては、全体で22項目「4月スタート時期の心の準備」が6項目、「日頃からの教師の心構え・あれこれ」が9項目、「日々の授業・指導のコツ」が7項目と多くの内容となってしまった。

さらに著者の視点で、3つのカテゴリーに分類はしたものの22項目全てが独立した内容ではなく、相互に関連し合い教師力を高める重要なポイントであると考えている。

22項目全てを意識し、教師の仕事に自覚と責任をもって実践を深めている教師は、現実には多くはない。しかし、教師を目指す学生や若手教師には、22項目のうち一つでも多くの項目を参考に意識化し、障害のある子供たちの目線に立って日々の教育実践に取り組んでほしい。

## 5. おわりに

どんなに時代が変化しようとも、やはり「教育は人なり」である。

本学では、今年度も多くの学生が教員採用試験に合格し、この4月から教師としての第一歩を踏み出すこととなる。

最初から、今回提言した22項目全てを理解し実践に生かしていくことは難しい。まず自分が今後「どんな教師を目指すか！」を明確にし「教育は人なり」の言葉どおり、まずは自分の人間性を磨き、教師力を高め、社会人として教師として大きく成長することを期待している。

## 参考・引用文献

- 1) 辻誠一「宮城県立角田養護学校・職員会校長資料」 2006.4～2009.3
- 2) 辻誠一「宮城県立光明支援学校・職員会校長資料」 2012.4～2014.3
- 3) 辻誠一「教師力向上のための四つの視点！」宮城県特別支援教育センター広報誌「燦々」提言 2011.4
- 4) 辻誠一著「改訂・特別支援教育のコツと技」 日本文化科学社 2008.4 ※2015・4月 フィリア出版より再版
- 5) 辻誠一著「実践・特別支援教育テキストブック」教育開発研究所 2017.4
- 6) 学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行について（通知）教育法施行規則48条（職員会議）文教地第244号 2000.1